

鎌ヶ谷市

郷土資料館

だより第64号

目次

- 令和5年度新資料展示を開催・・・1・2
- 郷土資料館この一品⑳ …………… 2
- 夏休み子ども企画実施報告…………… 3
- 史料整理の現場から㉓ …………… 4



徳川時代 貴婦人の図

◇ 文化財に親しもう ◇◇

新発見！鎌ヶ谷のたからもの

～令和5年度新資料展示を開催～

毎年11月1日から7日は「文化財保護強調週間」です。この期間中、文化財に親しむことを目的として全国的に様々な行事が催されています。

鎌ヶ谷市でもこれに合わせ、令和4年度に市が発掘・調査した埋蔵文化財と、郷土資料館が発見・整理、また寄贈いただいた歴史・民俗資料の主なものを展示する『新資料展示』を開催します。いずれの資料も初めて公開するものば

かりです。ぜひ、新しく仲間入りした「鎌ヶ谷のたからもの」をご覧ください。

展示内容を紹介します

◆歴史・民俗・考古資料

市内で発見・調査、または寄贈された、主に明治・大正・昭和時代の歴史資料や民俗資料(民具)、考古資料(石器)と、郷土資料館に移管され

(2ページへ続く)

(1ページからの続き)

た市歴史公文書、市域を撮影した写真のパネルなどを展示します。

寄贈していただいた「蓑」も展示



また、寄贈された市指定文化財の錦絵「貴婦人の図」(揚州周延画「徳川時代貴婦人の図」)及び「子ども遊戯風俗」(宮川春汀画「小供風俗」)も展示します。

◆埋蔵文化財

令和4年度中に発掘調査を行った新山 No. 1 遺跡や向山 No. 1 遺跡などから出土した遺物と、遺跡の発掘調査状況の写真パネルなどを展示します。

展示期間 10月28日(土)～2月10日(土)。

ただし、毎週月曜日及び11月23日(木)、12月28日(木)～1月3日(水)、1月9日(火)は休館

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時45分までに)

会場 郷土資料館2階展示室ほか

郷土資料館この一品②

ミシン(足踏み式・電動式)

常設展示室に2台のミシンがあるのはご存じでしょうか。

まず、1台は民具コーナーの生活道具(長火鉢などがあるところ)と米づくり(田舟などが置いてあるところ)の境に足踏みミシンがあります。足踏みミシンは足元の踏み板をリズムよく踏んで機械右側のはずみ車を回すことで、ミシン本体内の動力を動かして針が上下し布などを縫い合わせることができます。

もう1台は生活道具コーナーの左側、唐箕の前にある四角い箱です。使わない時は機械を内側に収納して、コンパクトな家具調となり、部屋のインテリアにも配慮したデザインになっています。機械を見ると足踏みミシンの状態を保ちながら、モーターが後から取り付けられています。昭和30年代始め頃に足踏みミシンとして購入し、10年位使ったものを、昭和40年代に入ってからモーターを後付けして電動に改造したものです。

ミシン本体の形も近代的になり、団地等の部屋にもマッチする箱型デザインで昭和40～50年代に家庭用ミシンのスタンダードとなる機械の出始めの頃のものとなったようです。

はずみ車を回す構造は同じで、動力が人力か電動かが大きな違いのようです。



↑ 後ろにモーターが



足踏み式ミシン



電動式ミシン



実演を交えたボランティアさんの説明を真剣に聞く子どもたち



根気よく紙やすりで削ります

苦勞して作った「まが玉」は、世界で一つの宝もの ▶

『まが玉づくり』

子どもたちからは「四角い石が削っていくうちにだんだん丸くなってきて、頑張れば頑張るほどきれいになっていくまが玉が努力の結晶の様に見えた。」などの感想が聞けました。



石を丸くするのは大変



夏休み子ども企画実施報告

『まが玉づくり』・『あんぎん編み』教室を開催しました

日常生活が戻ったこの夏、郷土資料館にも恒例の夏休み子ども企画「まが玉づくり教室」と「あんぎん編み教室」が帰ってきました。この号では、4年ぶりに開催したこれら教室の様子を写真で紹介します。



◀ あんぎん編みがスタート。最初は確認しながら慎重に進めます。お父さんも心配そう

子どもたちからは、「昔の人は糸も植物の繊維から作っていたんだと知って驚いた。」「左右の順番をときどき間違えて編んでしまい大変だった。」などの感想が聞けました。



慣れるに従って編み方のスピードもアップ



ほら、上手に出来たでしょ！



根気よくリズムカルに

『あんぎん編み』

【史料整理の現場から⑬】

～明治40年代の～

「年賀郵便特別取扱」 案内ポスター

前回に続き、郵便局に関する史料の紹介です。鎌ヶ谷大新田地区で郵便局務を担っていた徳田家には、明治期の郵便局関係史料が数多く残されており、これまで再整理作業を進めてきました。その中で、すでに別々の史料として目録に掲載されていたものが実は合体すると1枚のポスターであることが分かりました。

「御便利なる 年賀郵便特別あつかひ」「来る十五日より二十九日までにお出し下さい 四十五年一月一日早朝から配達いたします」といった案内文句がイラスト付で記されています。

年始状の始まりは平安時代にさかのぼるとも言われていますが、手段としては手紙が使われていました。明治6年(1873)に郵便葉書が発行されたことで、より簡便に気持ちを伝える方法として葉書が広く利用される様になります。

年始の挨拶状としても葉書は多用され、年末年始に葉書の投函が殺到したことから、32年には12月20日～30日を取扱期間とし、指定郵便局へ一定枚数持ち込まれた年賀状は、翌年1月1日の消印を押して配達局へ送り、元旦の最先便から配達する「特別取扱」が開始されます。この制度は39年に「年賀状特別郵便規則」として法整備され、取扱期間は12月15日～29日になり、翌年には枚数制限も撤廃され、ポストへの投函も可能となりました。

ポスターを見てみましょう。学生帽を被った男性と、着物にコートを羽織り、おかつぱの黒髪にリボンを付けた女兒が葉書の束を持って歩いています。兄妹で年賀状を出しに行く途中でしようか。「四十五年一月一日早朝から配達い

たします」という文言から明治44年12月ころに貼られたポスターだったことが分かります。

発行元の記載はなく、郵政事業を管轄した逓信省発行のポスターとも考えられますが、右下に描かれる年賀



見つかったポスター

葉書の束に記される住所に「千葉県」の文字が見えることから、もしかしたら発行元は千葉県だったのかもしれませんが。現在であれば、自治体名だけ差し替えた全国共通のポスターを製作することもあります。明治時代にはまだそのような印刷技術があったかどうかはわかりません。そのような想像を巡らすことも、史料整理の面白さといえるでしょう。

大きさは2枚合わせて54×39cmで、B3とA2の間という変形サイズです。それなりの大きさで、郵便局内に貼られていたと考えられます。紙も厚めでしっかりしていますが、年代が入った期間限定のポスターのため使用後半分に裁断され、郵便局の書類などの包紙として再利用されていたことから、整理の当初は1枚のポスターとして認識していませんでした。

ここ数年、葉書に代わるメール年賀状やSNSでの発信など、年賀状離れが加速しています。このポスターを見ていて、年賀状を書きながら相手の顔を思い浮かべる時間や、元旦、自宅ポストに配達された年賀状の束を取りに行く時のワクワク感などを思い出しました。今年の暮れに年賀状、書いてみてはいかがでしょうか。